

開催にあたって

飛島には縄文時代から渡航者があったことが考古学的に判明しており、本展には平安時代の洞窟居住者の人骨も展示されています。南北朝の世には歌枕《別れ島》として、また安土桃山時代には月の名所《金の島》として都にその名が流布していました。《飛島》とは江戸時代初期に酒井氏が庄内に入部して以来の呼称のようですが、島は貞観13年(871)の鳥海山噴火にともない「戌亥の隅飛び別れて海中に入」ってできたと伝承されています。そして鳥海山を大物忌神とし飛島を小物忌神とする篤い信仰も、大物忌神社とともに五穀豊穰・海上安寧を祈り合う祭事《火合わせ》として今に伝えております。

長く海の玄関口として歴史を刻んできた飛島も、現代の少子・高齢化の荒波にさらされ、過疎化が進行し、伝統的な行事が衰退し、島の歴史も風化の危機に直面しております。本館ではこの飛島について、総合的に資料の所在や内容をまとめておくことが大切であると痛感し、自然・歴史・民俗の各分野で資料調査を行ってきました。今般、その調査の概要と関連資料を紹介しながら、本県唯一の離島である、飛島の魅力～自然と文化の宝箱～を探ろうと企画したものです。

本特別展により、いささかなりとも飛島への理解が深まり、島への関心が高まりますことを祈念し、あいさついたします。

館長 春山 進

展示解説会(本館職員)

7月11日(日)、8月15日(日)、8月28日(土)
いずれも14時から

飛島マップ



飛島の概要

飛島は山形県唯一の有人離島で、酒田の北西方向約39.3kmの日本海上に位置していて、地球上では、アメリカのワシントン、ポルトガルのリスボンとほぼ同じ緯度にあります。面積2.36km²、周囲10.2km、標高69mの高森山を最高点とする平均海拔50mほどの平坦な台地で、対馬暖流の影響を受けて県内でもっとも暖かい所です。北西の季節風を避け、集落は島の南東側に形成されています。昭和38年7月国定公園に指定され、周辺の海は自然の宝庫として、釣り、海水浴、スキューバダイビングなどを楽しむ人たちが訪れています。また、渡り鳥にとって重要な休憩地になっていて、渡りの季節にはバードウォッチャーが大勢訪れます。

特別展

飛島

自然と文化の宝箱

平成16年7月10日(土)～8月29日(日)

山形県立博物館

展示室のご案内



須恵器

狛犬



獅子頭



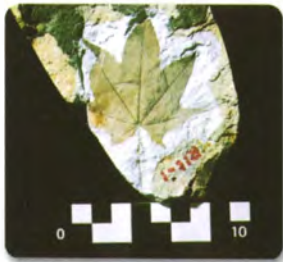
客船帳



縄文土器



ウミネコ



飛島産の化石

文化の中継点

北前船を支える

ヒトが住み
始めた頃



飛島の成り立ちと自然



陸生貝類・昆虫類

植物パネル展示

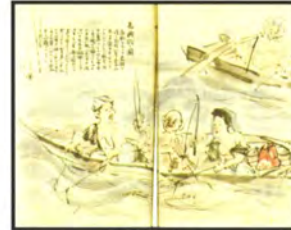


トビシマカンソウ

飛島スポット紹介

近代の風景

飛島図画の世界



飛島図画

壁面：教育関連図表・写真パネル
文集・作品等

幕末の激震



海と山に支えられて



囲み唐草文透かしガラス



モズクトリ



エベス船



島出土の鏡



トランクミュージアム
(西海岸漂着物)
酒田NPO関連パネル



学校文集



昔の学校の様子